

現地審査 DailyReport(10/12)

現地審査 2 日目の概要を伝えます。

湯ヶ島文学ツアー(8:50~9:40)

審査員は文学の里づくりが行われている湯ヶ島地区で文学ツアーを体験した。鈴木まき子ジオガイドは、ノーベル賞作家・川端康成ゆかりの地であり、井上靖が少年時代を過ごした土地であることを紹介。さらに、あすなろ会の岡田明子世話人が上の家で、井上靖の小説「しろばんば」を取り上げ、「井上先生の少年時代の作品で、先生が訪ねた場所が多く描かれている。先生を敬愛して、みんなで「しろばんば」をよく読んでいます」「しろばんば



劇団もあるし、この上の家で手芸教室、ミニコンサートもやる。ジオと協力してジオ文豪カフェも開いている」などと説明した。これに対し審査員からは「この家にはだれか住んでいるのか」「劇団はどこで上演しているのか」などの質問が次々と出た。その後、審査員は再び鈴木ガイドの案内で、湯道の秋の散策を楽しんだ。



劇団もあるし、この上の家で手芸教室、ミニコンサートもやる。ジオと協力してジオ文豪カフェも開いている」などと説明した。これに対し審査員からは「この家にはだれか住んでいるのか」「劇団はどこで上演しているのか」などの質問が次々と出た。その後、審査員は再び鈴木ガイドの案内で、湯道の秋の散策を楽しんだ。

黄金崎(11:15~12:40)

星野浄晋西伊豆町長の出迎えを受けた審査員は、西伊豆町立賀茂小学校の6年生8人が黄金崎でジオ学習を受けている様子を見学した。小学生を案内した土屋晴樹ジオガイドは眼前の岩が馬そっくりであることを引き合いに、西伊豆町には動物の形そっくりな岩がほかにもあることを紹介して、「奇岩動物園とも言われている」と小学生たちに「地元のお宝」に目を向けるように促した。さらに駿河湾を臨みながら、「深さが2500mもある」と説明すると子どもたちは目を丸くしていた。審査員は通訳を介して、説明を聞き、熱心にメモしていた。さらに、西伊豆町ビジターセンター「こがねすと」に移り、伊豆半島ジオガイド協会の仲田慶枝会長から、こがねすとの運営やガイド協会の説明を受けた。



堂ヶ島(13:45~14:45)

審査員は遊覧船でジオクルーズを楽しんだ。仲田ジオガイドはときにはエピソードを交えながら、審査員がともに地質学者であることから、船上から見える海底土石流など海底火山の痕跡をきっちり説明、審査員はしきりにシャッターを押していた。船がクライマックスの天窓洞に進入すると思わず歓声が上がった。さらに遠藤大介研究員が天窓洞近くの白い崖の見える船上から、ここが海底火山研究のきっかけになった場所であることを解説し、審査員はしきりにメモを取っていた。

